【令和４年度学校評価アンケートの考察】

1. 学校教育目標
2. 「楽しく学校に通う」の項目では、保護者と教職員と児童ともに高評価になっている。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策が昨年度に比べると緩和され、学校生活も元に戻りつつあった。行事等については、縮減の方向に変更することもあったが、コロナ前と同様にできることも増えた。各種校外学習、学校行事、調理実習、PTAバザーなどをコロナ渦でも対策を講じて行ったことで、学校に通う楽しみを見出す児童が多かったことが、高評価の要因と考えられる。引き続き、児童にとって魅力的な学校運営に努めていきたい。
3. 「すすんで学習」の項目は、教職員、児童の評価が保護者の評価に比べて低くなっている。平均すると、普通の評価であるが他項目に比べると低い評価となっている。今年度は昨年に比べ、低学年の児童の数が増えていることで、主体的な学習ができている割合が低くなったとことも一因と考えられる。今年度は、校内研修等を通して、「主体的な学び」の実現に向けて授業改善をしてきたが、今後も引き続き、児童の考えや思いを引き出し、すすんで表現できる児童の育成と「主体的な学習」への意識を高める授業改善を行っていきたい。
4. 「思いやりのある行動」の項目では、保護者、教職員、児童ともに高評価になっている。特に児童については昨年比で７％、保護者も2％高くなった。一昨年から比べると児童は１４％、保護者も１５％高くなっている。このことから、本校は優しい児童が年々多くなっていることがわかる。集団生活をしているので、友だち同士のトラブルはあって当たり前だが、トラブルがあった時は人間関係づくりの好機ととらえ、相手の立場に立って物事を考えるチャンスとしたい。今後もさらに、「笑顔の学校　福にっこり」の実現に向け、アンテナを高くし児童に丁寧に接する教職員集団を作っていきたい。
5. 「自分で考え判断」の項目は、長年、主体的に考えて行動することが苦手な児童が多い本校の課題である。しかし、一昨年度より保護者の評価が２３％増え、昨年度の高評価９２％を維持している。また、児童の評価は、昨年度に比べると１０％高くなり８０％となった。しかし、教職員の評価は、昨年度に比べると２３％低い結果となり、全体の平均は７８％と努力が必要という結果となった。教職員の中には、まだまだできることがあると考えている職員が一定数いることが分かる。今年度は、「未来　福にっこりプロジェクト」を立ち上げ、児童のアイデアを生かした取組に力を入れた。特に高学年については、自分たちの思いを実現させるため、人任せでなく主体的に行動する児童が増えた。引き続き、人数の割合の多い低学年については、自分がすべきことに目を向けさせ、上級生の背中を見て、建設的で主体的な行動ができる児童の育成を図る指導、支援を学習や生活場面で続けていきたい。
6. 「外で元気よく遊ぶ」の項目では、保護者、教職員、児童ともに高評価となっている。本校の児童は基本的に「外で元気よく遊んだり運動したりする」児童であることがわかる。本校では、業間休みや昼休みに教職員が一緒に外に出て、子どもたちとよく遊んでいる。また、学年関係なく異学年で仲良く遊ぶ文化がある。運動会、持久走記録会、縄跳び記録会に加えて、部活動も昨年度に比べるとできることが増え、感染症防止対策を行い、工夫しながら実施できるようになっていることが高評価につながっていると考えられる。引き続き体力向上に力を注いでいきたい。

２．学習指導

⑥「すすんで読書」の項目では、保護者の評価が昨年比で１２％上昇し高評価となった。しかし、昨年度に比べ教職員の評価が７％、児童の評価が１０％低くなった。学校では、子どもたちが読書に興味が持てるように、1人1冊のリクエストを実施し本を購入したり、１０月には「おはなし給食」を1か月続けたりなど、学校図書館の充実や食育とのコラボを工夫し、読書指導に努めている。学校全体では、「読書手帳」への取組を行っているが、取組の進捗具合には個人差がある。個々の実態に合った働きかけを考え、生涯にわたり本を読む習慣を身につける基礎作りに今後も励んでいきたい。

➆「学習したことの身に付き」の項目では、保護者の評価が昨年度に比べ5％高くなった。しかし、教職員、児童の評価はともに低くなっている。特に、教職員の評価は、一昨年に比べると15％低くなっていて、児童数の多い学年では、空間を分けての少人数指導や複数でのTT指導など、指導の工夫や手立てを講じてはいるが、結果が思うように出ていないことを示唆している。今後はさらに、個々の学力や学習への参加の様子を分析し、学習意欲を高める指導に努め、個別最適な学びの実現を目指していく必要がある。

⑧「分かる授業」の項目では、保護者、教職員、児童ともに高評価であった。昨年度は、教職員の評価が、保護者や児童に比べ若干低くなっており、まだまだできることがあると捉えていた教師が一定数いた。しかし、今年度は、昨年度に比べ教職員は8％増となり、「分かる授業づくり」に努力してきたことがわかる。反して、児童の評価は高評価ではあるが、昨年度に比べ9％低くなっていることから、学習内容が分からなくなっている児童が一定数いることが分かる。少人数だからこそできる本校の強みを生かした実態に合った指導を今後も進めていきたい。

３．生徒指導

⑨「自分から挨拶」の項目では、保護者の評価が95％と高評価であった。しかし、昨年度に比べ、教職員、児童の評価は低くなった。相手に伝わる「気持ち良い挨拶」について、学校では、年間を通じて継続的に指導しているが、身に付きには個々により差があることが分かる。挨拶は、社会で生きていくための大切なツールとなるので、確実に身につけさせていきたい。「相手の顔を見て、自分から、明るい声での挨拶」を、家庭内でそして学校でも、地域でもできるように引き続き指導をしていく。家庭の中での「おはよう。」「ただいま。」「おやすみなさい。」等の明るい挨拶を大人が率先して心がけることも含め、学校、家庭が同一歩調での取組を保護者の方々にもお願いしたい。

⑩「いじめのない学級・学校づくり」の項目では、全体平均94％と高評価であった。特に、保護者、教職員の評価が高い。しかし、児童の評価は昨年度に比べ若干下がっていることから、困っている児童が一定数いることがわかる。今年度も、スクールカウンセラーとの全員面談やスクールサポートカウンセラーの巡回や面談、相談箱の活用など、全職員で教育相談の充実を図ってきたが、さらに個に適切に対応できる体制の構築を目指していきたい。

４．安全

⑪「安全指導・管理の対応」の項目は、全体平均99％と高評価であった。特に、保護者、教職員はともに100％の結果であった。社会の中では、感染症対策が徐々に緩和されてはいるが、本校では毎朝、昇降口での体温と健康観察票のチェックを現在も行っている。今年度を振り返ると新型コロナ感染症の学校内を起因とする感染はゼロであった。また、万が一の災害に備えるため、火災や地震に加え、不審者侵入時の避難訓練も行った。また、休み時間等に起こる災害を想定した予告なしのワンポイント訓練も定期的に実施したことが、高評価につながったと考えられる。引き続き、感染症対策とともに児童の安全確保にチームで対応していきたい。

５．連携

⑫「学校と保護者の連絡・相談」の項目では、保護者、教職員ともに高評価であった。個人面談を年2回実施したり、学区外の児童が多いことで、毎日の送迎の際に担任と話をする機会に恵まれていたり、本校は、教職員と保護者が連携を取りやすい環境にある。引き続き、「連携」を大切にし、子どもたちの健やかな成長を支えていきたい。

⑬「学校からの情報発信」の項目では、保護者の評価が76％と低い結果となった。昨年度に引き続き今年度も毎日欠かさずホームページで「学校の様子」、「今日の給食」を掲載している。今年度は、合計

２6万件以上のアクセス数があり、昨年の同時期より3万件以上増加している。しかし、80％未満の結果かから推測すると、ホームページに積極的にアクセスする情報入手には手間がかかると感じていたり、欲しい情報が学校から得られないと感じていたりする保護者が一定数いることが示唆される。また、授業参観等の機会はコロナ前の状況に近づいたが人数制限を設けたことも要因である可能性が考えられる。今後はこの結果を踏まえて、さらなる情報発信の工夫に努めていきたい。

⑭「学校の電話や窓口の対応」の項目では、全体的に高評価であった。引き続き、丁寧な対応をモットーにした学校づくりに努めていきたい。

６．家庭

⑮「自主的な宿題・家庭学習」の項目では、児童と教職員の評価が高く、高評価となった。保護者の評価も昨年度に比べ5％高くなっている。力が確実につく「主体的な家庭学習」を目指し、次年度も、保護者の皆様と協力して家庭学習の充実に力を入れていきたい。

⑯「学校での出来事を話す」の項目では、保護者、児童ともに高評価となった。保護者は昨年度に比べ、16％、児童は14％高くなった。今年度は低学年児童の割合が増えたことで、学校での出来事を家庭で話題にする割合が増加したことも高評価の一因と考えられる。家庭が子どもたちの「心の安全基地」になるよう、引き続き保護者の皆様には、お子さんの話に耳を傾けていただき、家庭内でのよりよいコミュニケーションづくりをお願いしたい。

⑰「朝ご飯を食べる」の項目と他項目との評価で求めることの相違点は、この項目に関しては、平均100％を目指したいという点である。保護者、児童ともに高評価であったが、100％には到達していない。また、保護者と児童の認識にずれがあることも分かる。結果から、一定数の児童は朝食を食べずに登校している日がある。健康維持や学力向上のためにも、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨していきたい。ぜひとも、保護者の方々のご協力をお願いしたい。

⑱「子ども専用の携帯(スマホ)所有」の項目では、保護者回答26％という結果であった。保護者と児童との回答の差は、1年生児童が多いため、質問に正確に答えられていないことが一因と考えられる。所有者の割合は昨年より5％減少しているのも、学校全体では昨年度に比べ、高学年児童の割合が減り、低学年児童の割合が多くなったことが一因であると考えられる。携帯(スマホ)の使用については、健康面や人間関係、心理面などへの悪影響がないよう、ルールを作るなど、家庭での工夫をお願いしたい。

⑲「福田ほっとハートデーの取組」の項目では、保護者の回答は、昨年度に比べ16％低い結果となったが、児童は3％高い結果となった。毎月１０日のこの取組は、福田地区４校と連携して行っている。ご家庭のご協力なしではできない取組なので、大変感謝している。趣旨をご理解いただき、今後もご協力をお願いしたい。

【アンケートのまとめ】

　良い評価の項目

注)　☆は、平均値が昨年度より高い評価になっている項目

★は、平均値が昨年度より低い評価になっている項目

※（　）内は保護者･教職員･児童の平均値（％）

①楽しく通う　（98）　　　　　☆③思いやり（94）　　 　☆⑤外で元気よく遊ぶ（90）

★⑧分かる授業（９2）　　　　　★⑩いじめのない学校づくり　（94）

⑪安全指導、管理（99）　　★⑨自分からあいさつ　（86）

☆⑫学校と保護者の連絡、相談　（98）　　☆⑮自主的な家庭学習（９１）

★　⑭学校の電話、窓口等対応（98）　　　☆⑯学校のできごと話す（93）



さらなる向上を目指す項目

☆②すすんで学習（82）　　　　★⑦学習の身につき（84）　　　　⑥すすんで読書　（82）

★⑬学校からの情報発信（81）

さらに努力が必要な項目

★④自分で考え判断（78）　　　☆⑰朝ごはん(98）　※100％が目標

★⑲福田ほっとハートデーの取組（79）

【次年度の学校経営の方向性について】
今年度の学校評価アンケートの結果より、次年度は、良い評価の項目については、さらに工夫を加

え、「安心・安全・笑顔の学校　福にっこり」の実現を目指していきます。努力が必要な項目、特に「自分で考え判断」などにつきましては、工夫改善をしていきます。また、保護者の皆様のご意見を真摯に受け止め、善処してまいります。「あいさつ、家庭学習、朝ごはん、福田ほっとハートデー」への取組につきましては、保護者の皆様にご理解いただきながら、さらなる連携を図る取組を工夫していくよう努めてまいります。